

選ばれる町になるために シニア世代・子育て世代に聞く



町民の意見を広く聴き、町民に寄り添った町政運営を推進するため、町長とシニア世代・子育て世代の皆さんが意見交換会を行いました。

シニア世代からは多古町老人クラブ連合会役員、子育て世代からは多古子ども園保護者会役員の方々が出席し、それぞれの世代の目線から多古町に住んでいて良かった点や、より住みよい町にするためにはどうすればいいかを話し合いました。

**町の礎を築いた
シニア世代から見た多古町**

- 循環バスやデマンドタクシーなどの公共交通はとても便利だと感じますが、路線廃止などの理由で地域ごとに格差が大きくなっているため、改善していくべきだと思います。
- グランピング施設など常磐地区の開発に合わせて西古内・南玉造線の整備が進めれば、町の発展につながるのではないのでしょうか。
- 多古町への移住、就農への需要はあるはずなので、外部とのネットワーク作りを積極的に行い、新規就農の促進や空き家対策を進めていってほしいです。



左から原信秀さん、加藤悦夫さん、平山町長、土屋重光さん、香取嘉男さん、勝又基さん

未来を育み、支える

子育て世代から見た多古町

- 多古町では子どもの医療費や給食費などがゼロで、改めて県内トップクラスであることを身に染みて感じています。このまま継続してもらえるとありがたいです。
- 多古町ならではの、自然を生かした五感に訴えかける体験型のイベントなどがあると良いと思います。
- 多古町には町内で気軽に遊べる場所が多くあると思います。息抜きに散歩ができたり、子どもを遊ばせることができる場所などのマップがあれば、地域コミュニティの形成や交流にもつながるのではないのでしょうか。
- 子ども用品の販売店や夜間対応の小児病棟などがないので、町外に出ていくことが多く、もったいないです。子育てに関することを町内で完結できる仕組みがあれば良いと思います。



上段左から出頭薫さん、境野麻里子さん、伊藤良子さん、平山いづみさん、菱木美友さん
下段左から星友貴さん、行方一成さん、平山町長、萩原利江さん

町民の皆さまと共に歩み

「選ばれる町」へ

これまで、さまざまな世代の皆さんと意見交換を行い、多古町の未来を本気で考え、出し合った意見を伺うことができました。貴重な意見を積み重ね、反映していくことで、多古町はさらに「選ばれる町」として成長していきます。今後も町民の皆さまに寄り添い、歩みを進めていきます。

多古町農業体験ツアー

11月19日(土)

多古町と農業に興味のある7人の方が参加しました！



左から7人、農業体験ツアー参加者の皆さん

多古町の農業を知る

今回の農業体験ツアーは、レタス収穫体験とフルーツトマトハウス見学を実施し、常磐地区で農業経営をされている「さいとう農園」の齊藤直行さんと、「佐藤農園」の佐藤正史さんに講師を務めていただきました。

まず、齊藤直行さんから、ハウスなどを使わない露地栽培の説明を受け、実際に体を動かしながら収穫体験をしました。佐藤正史さんからは、フルーツトマトハウス見学に加え、新規就農へ向けた技術習得や資金計画、経営開始後の経営イメージなどの説明があり、参加者からは「経営開始までにどれだけの研修期間が必要か？」「資金はいくら必要か？」といった就農に対する前向きな質問がありました。

レタスの収穫体験と、フルーツトマトハウスの見学を通じて、「農家の方からリアルな情報を聞くことができた」など、参加者から喜びの声を聞くことができました。



レタス収穫体験



さいとう農園 齊藤直行さん



佐藤農園 佐藤正史さん



フルーツトマトハウス見学

相談会 in 万福亭

農業体験の後には、常磐地区の万福亭(古民家宿泊施設)でバーベキューをしながらの相談会となりました。

釜炊き体験で炊き上げた多古米や、町の特産品を使用した料理の数々が相談会を盛り上げ、終始和やかな雰囲気情報交換が行われました。

この相談会には農業未経験から新規就農された方や、移住コーディネーターにも参加いただき、新規就農や移住などに向け、自身の経験やアドバイスを含めたお話をいただきました。

今回の農業体験ツアーは大変好評で、参加者の中には、このツアーを通じて実際に移住を決めた方や、就農された方もいらっしゃいます。

今後の多古町の農業持続化に向け、「多古町農業体験ツアー」を継続して実施していきます。

お問合せ ● 産業経済課農業振興係

☎ 76-5404